

第119回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

日時	令和8年1月26日(日) 10:30~17:00
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員) 川原部会長、植松委員、小川委員、國廣委員、後藤委員、鳥海委員、肥後委員、松村委員 事務局) 横浜市：古檜山、中尾、安藤、今村、三浦、市川 市民セクターよこはま：加世田、山田、福嶋、小菅 横浜市住宅供給公社：岡部、鈴木、土屋、高橋
開催形態	公開 (会場での観覧及びYouTubeでのLIVE配信)
議題	令和7年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による整備提案の発表を踏まえたポイント整理 4 審査方法の説明 5 公開議論、質疑 6 公開投票及び結果発表 7 講評
決定事項	6件の提案のうち、以下の4件の提案を整備助成対象提案として選考 【整備提案名】<提案グループ名> 1 【まちしるべ~掲示板の活用でつながるまちづくり~】 <鶴見西口活性化委員会> (鶴見区) 2 【歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり】 <生麦事件参考館リユースプロジェクト> (鶴見区) 3 【希望が丘チャレンジベース~まちのコンシェルジュ~】 <希望が丘みらいデザインチーム> (旭区) 4 【横浜駅西口水辺憩いの空間の植栽整備】 <横浜駅西口トリコロールリバーズ> (西区) 令和8年度1次コンテスト免除提案として、次の1件を選考 ・【関内桜通り「としょかん」&「こうみんかん」の整備】 <桜通りをたのしくする会> (中区)
審査基準	1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ及びデザインへの配慮 ・整備工事における地域での費用や労力の負担方法などの工夫 ・整備した施設の維持管理・運営の実施方法などの工夫 2 実現性 ・整備する施設の維持管理・運営計画と組織体制 ・地域(地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等)での合意形成

	<p>関係機関との調整、まちづくりの専門家等の意見への理解</p> <p>3 公共性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度 ・活動を地域に開きながら、広げた又は深めた経緯や実績 <p>4 費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備の規模（数量）と整備による効果の妥当性 ・コスト削減の工夫 <p>5 地域まちづくりへの発展性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備をきっかけに地域のコミュニティが広がる、又は深まる可能性 ・整備をきっかけに地域のまちづくり活動が活発化する可能性 ・他の地域によい影響を与える可能性
選考結果	
選考団体（投票数順）	委員講評
<p>【提案名】 まちしるべ～掲示板の活用 でつながるまちづくり～</p> <p>【提案グループ名】 鶴見西口活性化委員会</p> <p>【投票数】 16 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は来街者・地域住民双方を対象にしていたため、対象が広く、軸が見えにくくなるのではと懸念していた。しかし今回の発表では「地域の人に自分達のまちを知ってもらおう」という方向に明確に舵を切られ、高く評価できる。 ・内容も丁寧に整理されており、デジタルサイネージの設置場所変更も将来構想が示され、妥当性を感じた。 ・今後はサインの工夫や、地域ケアプラザ等も含めた情報発信の充実、子どもたちの作品展示の工夫など、発展に向けた取り組みを期待している。
<p>【提案名】 歴史でつなぐ多文化共生・多 世代交流のまちづくり</p> <p>【提案グループ名】 生麦事件参考館リユースプ ロジェクト</p> <p>【投票数】 15 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容はこれまでも充実していたが、今回は整備の方向性が明確で、実現したい意図がより分かりやすく示されていた。 ・昨年度からの再挑戦で、この一年間に多くの検討を重ねてきた様子が伝わった。 ・世代や価値観の違いを乗り越えて仲間を大切に、ワンチームとして進んでいってほしい。
<p>【提案名】 希望が丘チャレンジベース ～まちのコンシェルジュ～</p> <p>【提案グループ名】 希望が丘みらいデザインチ ーム</p> <p>【投票数】 16 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1次コンテストの段階から、安定感のある魅力的な提案だった。 ・住み開きカフェを起点に、駅前拠点へと広がっていく流れや、学生との出会いを通じて活動が発展していく様子は、物語性も含め非常に引きつけられるものだった。 ・ソフト企画コンテストに24件の応募が集まったことや、「まちのコンシェルジュ」という高い理想像を掲げて、皆で考え続ける場づくりへの姿勢に、大きな期待を感じた。

<p>【提案名】 横浜駅西口水辺憩いの空間の植栽整備</p> <p>【提案グループ名】 横浜駅西口トリコロールリバス</p> <p>【投票数】 10 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体制が安定しており、安全に事業を進められるチームだと感じた。事業実施後のピークとなる目標イベントを明確に設定していた点は、まちづくりにおいて非常に重要で、評価できる。 ・「80 のやりたいこと」を実現するためには担い手の可視化と多様なネットワークの形成が今後の鍵となる。 ・まち普請で大規模な提案を出すこと自体が難しい中、周辺エリアまで含めた構想を示し、「実現できる」と思わせた力量は見事だった。 ・数年度に西口のまちづくりはここからブレイクが始まったと誇れる事例になることを期待したい。
<p>令和 8 年度 1 次コンテスト 免除提案グループ</p>	<p>委員講評</p>
<p>【提案名】 関内桜通り「としょかん」& 「こうみんかん」の整備</p> <p>【提案グループ名】 桜通りをたのしくする会</p> <p>【投票数】 9 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインは非常に洗練されているが、関わり方やプロセス、込められた熱量が見えにくいと感じた。 ・地域ニーズの把握に不十分な点があり、丁寧に掘り起こす時間をもう少し確保することで、より意義のある場所になると感じた。 ・現段階は整備に進む時期ではないと感じているが、適切なタイミングが来れば大きく花開く可能性があるかと期待している。 ・今後発展していく力は十分に備わっており、関わる人の輪を広げていくことで、より良い展開につながると思う。
<p>資料</p> <p>(資料 1) 令和 7 年度横浜市民まち普請事業 2 次コンテスト整備提案集</p>	